

第3回 第4次佐賀市文化振興基本計画策定委員会 議事録

開催日	令和7年8月6日（水）	
開催時間	10時00分～12時	
開催場所	佐賀市役所 4階大会議室	
出席者	委員	多良委員、七田委員、西原委員、山田雅子委員、 諸井委員、福島委員、木塚委員、梅崎委員
	事務局	地域振興部：大坪部長、小林副部長、 文化財課：坂井副課長、久野主査 歴史・文化課：池田課長、道田副課長、 小副川主査、常富主事
議事	・議事 1) 修正案審議（第1章～第2章） 2) 骨子案審議（第3章～第5章） 3) 基本理念について 4) 座談会について	
欠席委員	山田健一郎委員	
傍聴者	なし	
報道関係者	なし	

【会議の公開・非公開】

○委員長

佐賀市では審議会や委員会等は、個人や団体の不利益になる場合や、会議の運営に支障が出る場合を除き、原則公開としている。公開と決定されれば会議の傍聴を認め、会議録の要約を市のホームページで公開させていただく。異議がなければ、原則どおり公開とさせていただきたいが、よろしいか。

○委員（承認）

【議事1】

修正案審議（第1章～第2章）について

○事務局から説明

○委員

中身が前回より充実してきていると率直に思った。コラムについては、全体としていくつくらい入る予定なのか、テーマについてある程度案があるのかどうか。

○事務局

コラムについては、全体を通してどうなるかはまだ決まっていないが、計画本文の中でどこに位置付けていいか難しいような話題やテーマを語る場としたい。コラムの内容については、ぜひ委員の皆さんからも意見を頂戴したい。

○委員

コラムについて、計画は行政が考えることではあるが、市民の皆さんに期待すること、やってもらいたいことなどに触れてもらったら、市民の皆さんもやる気が出るのではないかと思う。計画を押し付けるだけではなく、そういった言葉が欲しい。

○事務局

コラムの中でそういった市民に対するメッセージを記載できるかどうか、検討する。

○委員

市民の目線という形で、協力を呼びかけていく、「共創」というメッセージを発信できたらいいと思った。コラムについては、バランスの取れた一貫性のある形でぜひ入れていただきたい。ページの空いたところを埋めるという考えではなく、全体の流れの中で見せ方を工夫してもらいたい。

○委員

「文化によるまちづくり」に書いてある内容について、「個性あふれる地域づくり」の内容との区別が判然としない。どこが地域づくりでどこがまちづくりなのか。同じような内容で活用のやり方が違うのかもしれないが、一つにまとめられると思う。

○事務局

前回の会議でも、地域づくりとまちづくりについては、区別が曖昧ではないかという意見をいただいた。視点が非常に難しく、両方に関わる課題が多くあるので、もう少し明確に課題を分けて整理していきたい。意見をもとに、必要があれば構成や内容等も見直したい。

○委員

固有名詞を入れたほうが分かりやすいが、固有名詞を入れることで区別がつかなくなっているようにも思えるので、そこは割り切って整理しても良いのではないか。具体的な考えとまではいかないが、文化によるまちづくりであれば、芸術的な文化があってもいいし、生活的な文化があってもいい。文化財や芸術という文言はあるが、それ以上のことが見えてこないのので、文化について少し深めてもらえれば話が広がるのではないか。

○事務局

P38 の(4)文化によるまちづくりの2段落目以降が(3)の内容と被ってしまい、曖昧になっている原因だと考えているので、先ほど指摘のあった文化財以外による視点、まちづくりに関わることをもっと書き加え、調整したい。

○委員

文化財について、有形文化財なのか無形文化財なのかが気になっている。有形文化財は維持管理をしていくといった内容でいいかと思うが、無形文化財について、いわゆる「わざ」の部分を継承していくための支援がどうなっているのか。取組みを聞かせてほしい。

○事務局

今のところ、無形文化財の継承について、市には助成金や支援のようなものは無いと思われる。浮立などの伝承芸能については支援を行っているが、工芸については支援制度がない。

○委員

その技術がいつ頃佐賀に根付き、どのくらいの期間続いているのか、基準というものが必要だとは思いますが、支援にふさわしい「わざ」を調査・発見して行く必要がある。有形文化財は、純粹に古い建物が残っていて、歴史的価値があることは専門家が調べればわかるが、無形文化財のような人の「わざ」だったり口伝だったり、実際に調査しないと見つからない。佐賀の人は知っているが他の地域の人には知らない、そういったものは多いと思う。文化財という言葉、有形か無形かで考えていくことが必要ではないか。

○委員

今の意見で、無形文化財の「わざ」の部分については、技術の伝承とか人材の育成など、次につなげていくための何か助成制度のようなものがあるのではないかと、いう趣旨の発言だったと思う。大和の名尾和紙や肥前ビードロ、鍋島段通、そういったものが工芸としての無形文化財として対象となるのではないかと。アトリエの設置や若い人の育成など、支援については市も仕掛けをしていたように記憶している。助成金については、市町の補助制度が全くないわけではないと思うが。

○事務局

19 ページに、佐賀県の指定伝統的地場産品を紹介している。このような工芸品については、市でPRに努めている。特に、佐賀錦や鍋島段通については、柳町の久富家、福田家で実際の作品を展示し、技術を紹介している。美術や陶芸などについては支援の手が行き届いていないのが現状だが、今後は山口亮一旧宅をその支援の拠点として考えており、若い作家の活動の場として、また、情報交換や交流の場所として、旧宅の活用を考えている。旧枝梅酒造では、民間のNPOによる美術を中心としたギャラリーなどの企画を実施しており、若い芸術家が集う場所になっている。引き続き、市としてもこのような形で支援を行っていききたい。

○委員

内容については、15 ページで市立図書館について触れられている。大規模改修のことは記載しないのか。

○事務局

図書館の担当者と相談し、追記を検討する。

○委員

9 ページの歴史に関する文章について、イラストなどを駆使して、分かりやすく現在までのつながりを表現できないか。視覚的に歴史の流れが理解できるといいのでは。前回は肥前風土記が最初に引用されており、佐賀の地名の由来が記載されていた。関心が高い部分かと思われるので、コラムなどの形式でもいいので残してみてもいいのでは。

○事務局

イラストについては、いただいた意見をもとに検討したい。佐賀という地名の由来に関しては、文化財課と相談し、読み物として読んでもらえるような形で掲載ができないか考えたい。

【議事2】

骨子案審議（第3章～第5章）について

○事務局から説明

○委員

年号表記について、基本は元号表記だろうと思う。西暦が必要な場合は括弧書きでよいのでは。前回はすべて元号で表記していた。

○事務局

総合計画を参考にし、西暦表示を中心とした。元号表記を基本とし、西暦については括弧表記とすることを検討したい。

○委員

59 ページの推進体制について市民を最初に記載できないか。こういう計画は市民の意識が低いことが共通した課題である。主役は市民なので、そこを強調してほしい。

○事務局

指摘の通りだと考える。全てにおいて、市民の記載が最初になるよう調整する。

○委員

アートカウンシルの設置に向けて検討することはすごく良いと思う。そもそも市は、芸術家とか創作活動をされている方に対してどういった認識を持っているのか。支援の対象となるアーティスト、芸術家とはどのような人物像なのか、その辺が明らかになっていないと支援はできないと思うが。

○事務局

個人で活動しているが、発表の場がなかったり資金がなかったり、創作活動は好きだが個人では活動を広げていくことができない、そういった人たちの支援を想定している。全ての市民に、文化芸術を身近に感じてもらうことが最終目標なので、そのために個人の活動を支援していきたい。また、そのような熱意を持った方を紹介してもらい、人と人をつないでいくイメージを持っている。

○委員

アーティストに資金がないのは当たり前で、基本的にはアーティストは全部自分でやっつけてしまおうとするはず。支援の方法については、される側がどのような支援を求めているのか、人物像をある程度イメージしながら進めた方が、気軽に参加してもらえるのではないか。お金が無くて、自分の創作活動ができればそれでいいと思う人もいるはず。創作活動に携わる人は、そこまで寄り添ってほしいと思っていない人が多いと思う。支援の方法についてすれ違いが起きる可能性もある。コミュニケーションをしっかりととり、どのような支援の形が求められているのかを把握してほしい。

○事務局

行政の考えがなかなか至らないところまで意見をいただいたと思う。すれ違いが広がっていくほどお互いの溝も深まり、私たちが思い描いているアーツカウンシルが進まなくなってしまうえば本末転倒であり、委員を含め実際に創作活動に携わっている方々の意見をしっかりと聞きながら進めていきたい。他自治体のアーツカウンシルの活動をこれから参考にし、すれ違いやギャップが生まれていないかなども調査していく。

○委員

若い芸術家・若手の作家とあるが、どれくらいを想定しているのか。

○事務局

若手という表現は確かに伝わりづらいかと思うが、始めて間もない、活動歴が浅い方々をイメージしている。

○委員

ジャンルによって若手の定義も変わってくる。彫刻の分野で言うと、若手とか新人と呼ばれるのはだいたい45歳くらいで、中堅と呼ばれる層がとても多い。

○事務局

どのような年齢層、段階の方々に支援をしていくかの判断のためにも、委員の意見は大変参考になる。状況をしっかりと把握し考えていきたい。

○委員

61ページの数値目標について、どの程度重きが置かれるものなのか。5年後には頑張って達成できるような、実現可能な数字にするべきではないか。

○事務局

数値目標は、今後年に1度開催していく推進懇話会での議論の指標になる。達成できていないから予算を減らす等の話にはならないが、議会など様々な場面で説明を求められたときに、この数値目標を使って達成度を説明する必要がある。到底達成が不可能な数字を記載してもいろいろな問題があると思うので、ぜひこの策定委員会の中で相談させてほしい。

○委員

DX、ICTについて、基本目標の3に入ると思っていたが見当たらない。重度障がい者や病院に入院している患者、施設にいる高齢者の皆さんが、文化芸術活動から切り離されないようにしてほしい。たとえ寝たきりになっても、それまで親しんでいたアート活動や作品鑑賞、演劇鑑賞などができるとすごく良いと思う。基本目標4の内容に関連するような形で、その場に行かなくても文化芸術活動に触れることができるようにしてほしい。

○事務局

DXとICTについてどこで取り扱うかについては悩んでいる。43ページの「誰もが文化に親しめる機会の提供」のところで掘り下げようと思っていたが、委員の示された視点も重要かと思うので、検討させてほしい。VRなどの仮想現実の技術は、特に障がい者の皆さんと親和性が高い技術だと考えているので、委員と相談しながら計画の中に盛り込んでいきたい。

○委員

佐賀市独自の取組み、先進的な取組みとして佐賀市民芸術祭を位置付けられているので、芸術祭の中でそのようなアクセシビリティの確保にチャレンジしていただきたい。動画によるライブ配信や、VRを使ってなにか試行してみるなど、考えてほしい。

○委員

万博でも、施設や自宅にいる障がい者の方と、現地を訪れた客がモニターを通じてリアルタイムで相互にあいさつをするなどの取組みがあり、今の委員の話聞いてそれをイメージした。そういったことを、これまで力を入れてこられた芸術祭で新しい技術を活用し、誰もが参加できるような形にリンクできたらいいと思った。

○委員

佐賀市の芸術文化人材バンクを作りましょう、ということになり、文化振興財団が事務局としてやっている。アーツカウンシルに向けた取組みとして、個人や団体同士をつなげていくという役目があると思うが、人材バンクと重なる部分があるので、計画の中で言及してほしい。

○事務局

アーツカウンシルという表現に力を入れたこともあり、人材バンクの取組みについてはいったん記載を落としてしまった。アーツカウンシルに向けては、今の人材バンクの取組みがベースになっていくのは間違いないので、しっかり記載したいと思う。

**【議事3】**

基本理念について

○事務局から説明

○委員

私は最初の計画策定から携わっているが、基本理念はこの計画が何を目的としているか、端的に分かるように決められたと記憶している。事務局案はキャッチフレーズに思えるが、キャッチフレーズはキャッチフレーズでいいし、基本理念は基本理念でいいと思う。基本理念は変えずに、時代に合わせてキャッチフレーズを決めればよいのではないか。

○事務局

基本理念は完成度が高く、変えようがないと思う一方で、時代に合わせて変えていけないといけないという意見があるのも事実であり、大変悩んでいる。基本理念は変えずに、時代に合わせてキャッチコピーを変えていく、というのは非常に腑に落ちる意見であるとする。

○委員長

基本理念はそのまま、計画の内容に合わせ、キャッチコピーを作成していくという方向性でよろしいか。(他の委員も同意)

【議事4】

座談会について

○事務局から説明

○委員

こういう場を用意していただき有難い。事前にどういった内容を話すのかを、ある程度伝えておいて欲しい。ぶっつけ本番ではあまり意見が出ないと思う。自分の周りでは、佐賀市の文化振興計画があることを知っている人はいないし、自分の生活で精いっぱいなので、佐賀市がこんなことをやっている、ということも知らない。計画の内容を話すのであれば、アーツカウンシルを取り上げてほしい。座談会に来る人は多分何とか活動できている人だと思うが、活動ができていない人もたくさんいる。どんな人が集まるかにもよるが、活発な意見が出るかどうかは疑問である。作家にもランクがあり、どのような人を呼んでどんな話をしてもらおうのかは、本気でしっかり考えておかないといけないと思う。

○事務局

メンバーの人选については私たちもかなり悩んでいるので、委員の皆さんと相談して進めていきたい。実りのある内容になるよう、どんなことを話し合うのかは事前にしっかりお知らせして、来ていただきたい。

○委員

佐賀市はアーツカウンシルなどの取組みの中で、支援をしていこうという考え方があるのだから、そこを知ってもらいたい。何とか食べてはいけるけれども、こういっ

た環境整備をしてほしいとか、そういった意見も吸い上げられるとよい。そういった意味では、人選と事前の準備が大切だと思う。しっかり取り組んでもらいたい。